

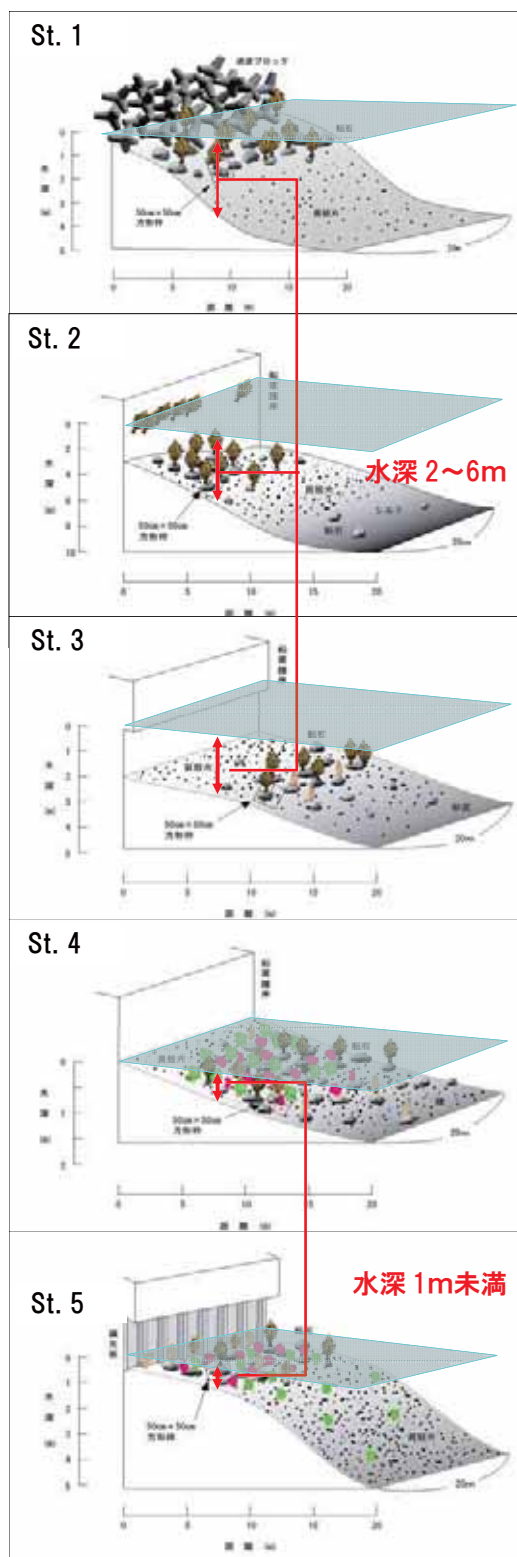
## 5 まとめ

海藻の仲間は、目視で観察できるものとしては、緑藻、褐藻、紅藻の大きく3つに分類される。

川崎港において春季および冬季に実施した大型海藻草類調査については、緑藻であるアオサやハネモ属、褐藻であるワカメ、そして紅藻であるベニスナゴやムカデノリ属など、合計10種類以上の海藻が出現した。いずれの海藻も、沿岸に普通にみられる種であった。なお、海草（うみくさ）類については出現が認められなかった。

調査を実施した6月は、ちょうどワカメの衰退期にあたり、現場で観察した個体は、成熟後に遊走子を放出した後のものがほとんどであったと考えられる。そのため、葉の部分が枯死し、茎だけになった個体が多くみられた。

春季・冬季ともに、海藻の出現はSt. 1~3では少なく、St. 4・5で多い傾向にあった。透明度や濁度について現地観測結果をみると、特にSt. 1~3で値が低いわけではないことから、水質による光量の不足が原因ではないと考えられる。そこで、海藻が生育していた水深と地形を比較してみると（図I-2）、特にSt. 4およびSt. 5で他の地点に比較して、目視観察範囲の水深が浅く、その面積が比較的広く確保されていることがわかる。つまり、St. 4およびSt. 5では、海藻が生育する十分な光量と面積が得られるために、多様な種の出現が確認されたものと考えられる。



図I-2 各地点の水深と地形の比較  
(平成22年6月調査)